

別紙解答用紙に解答すること。

「野球という遊戯は悪く言えば巾着切りの遊戯、対手を常にペテンに掛けよう、計略に陥れよう、ベースを盗もうなどと眼を四方八方に配り、神経を鋭くしてやる遊びである。……野球は賤技なり、剛勇の気なし。」

この文章は、教育学者・新渡戸稲造博士（東京大学教養学部等の前身である第一高等学校長）によるものであり、1911年朝日新聞紙上に「野球と其害悪」という題で22回にわたり連載されたリレー式コラム第1回目の記事からの引用である。

「野球有害論」とも呼ばれるこの議論は、ことさら野球のみをやり玉にあげようとするものとも解されない。この議論は、「ルール」に反しなければ何をしてもよい、という「勝利至上主義」を批判したものであり、スポーツが、フェア・プレイの精神や公共心、人格の陶冶（人としてのモラルの形成）へと必ずしもつながらないことを指摘したものである。

①この議論を支持する理由、反対する理由を、それぞれ述べたうえで、②あなたの意見を述べなさい。意見を述べる際には、スポーツ以外の日常生活における道徳や倫理、社会における競争や協働は、いかにあるべきであり、スポーツがそれにどのように役に立ち、又は、役に立たないかを述べるよう注意しなさい。

以上